

## 学生のイメージする「既成玩具と手づくり玩具」に期待している点 — アンケート調査から分析 —

An image of Student at a Matumoto junior college  
「Ready-made toys and make toys」point of expect  
— An analyze out of questionnaire investigation—

寺 島 明 子

Akiko TERASHIMA

### 1. 研究の動機

既製玩具とは、「おもちゃメーカーがまずモデルを作って、モデルどおりにそれぞれの部品を大量に作り、それらを組み立てて、一個のおもちゃを完成する。」<sup>1)</sup>と肥田埜は述べている。また、手づくり玩具においては、「一人の人が一つのおもちゃを、ていねいに作り上げていくこと」<sup>2)</sup>と述べている。したがって、既製玩具の大部分は「人の手でしかできないところを除いて機械に作らせる」<sup>3)</sup>と述べている。以上のように作られ方が異なる既成玩具と手づくり玩具について学生が期待しているものは何かを考えるために、既成玩具と手づくり玩具へ期待するものについてアンケートを行った。

### 2. 乳幼児の手づくり玩具における先行研究

山田は「日本のおもちゃ」(1968年)の中で、「おもちゃの起源を考えると、最初はまず自然物をおもちゃにしたことがはじまりと思われます。こどもが勝手に木の実・貝殻・竹や、あるいは虫までを使って、おもちゃにして遊んだと推定されます。これとは別に、親、兄弟が自然物を工夫して、再工し、おもちゃを作り、こどもに与えました。竹馬、麦笛、草の穂でこしらえた人形などその例です。そうしているうちに、部落の中で器用な人が、近所の人に頼まれておもちゃを作るようになると、そこにおもちゃ作りを職業とするひとがうまれて、商品化の道をたどったのであろうことはだれにも推察できます。」<sup>4)</sup>と述べている。

また、滑川は「オモチャ教育論」(1969年)の中で、手づくりオモチャは親や祖父母が生活の中で、子どもに喜ばれようとして作ってあげたことが起源であると述べている。<sup>1)</sup>

多田は「手づくりおもちゃ事典」(1985年)の中で、「おもちゃは、おもちゃをつくって売買が成立しだすまで全て手づくりだったのです。」<sup>5)</sup>さらに、「人々の生活に必要なとするものを手づくりでつくったのがおもちゃの原点なのです。」<sup>6)</sup>と述べている。また、手づくりおもちゃは作り手の心が乗り移って光り、その人の文化の象徴である。<sup>2)</sup>とも述べている。

したがって、これまでの文献から整理される。手づくり玩具は、子どもを育てる者が、子どもの要求している物を子どもの見ている所で、自然素材を素に心を込めて作る遊び道具であると言うことができる。

「子どもの心をとらえる学生の手作りおもちゃ—小児看護実習で生活支援用具の工夫と開発を考える—」では、「学生が制作してくるおもちゃは、様々なアイデアや工夫があり、オモチャ作りの思考過程と作業過程は、治療用具やリハビリ用具、住宅改造など幅広い分野で応用で

きることにもつなげることが出来たのである。」<sup>7)</sup>と猪谷は述べている。学生が制作した手作りおもちゃは、「ひらがなが勉強できるパズル」、「タオルでつくったゾウのぬいぐるみ」、「コルク板を利用したパズル」、「アンパンマンのゆらゆら」、「ペットボトルのお散歩犬」<sup>8)</sup>であった。「遊びが子どもの生活そのものであるとすれば、それを支援する用具としての「おもちゃづくり」は、生活支援用具の作製であると考え。」<sup>9)</sup>と述べている。

以上のように、手づくり遊具・玩具に関する研究を取り上げてきたが、これらの先行研究では、既成玩具や手づくり玩具に期待している点について明らかにしている研究は少ないと言えよう。

### 3. 研究の目的

以上のように、手づくり遊具・玩具に関する研究を取り上げてきたが、学生のイメージする既成玩具と手づくり玩具に期待している研究は少ない。そこで本研究では学生のイメージする「既成玩具と手づくり玩具」をアンケート調査から分析し、学生の考える手づくり玩具はどのようなことに期待しているのかを明らかにしたい。

### 4. 研究の方法と調査の概要

#### ・質問紙調査

#### I. 予備調査

- ① 目的：学生の既成玩具へ期待するものと手づくり玩具へ期待をするものの把握をすること及び本調査での質問項目作成のための資料を得ることを目的とする。
- ② 対象：M短期大学寺島ゼミの履修生の2年9名
- ③ 調査期間：2005年7月
- ④ 方法：記述式（既成玩具へ期待するものと手づくり玩具へ期待するもの）
- ⑤ 結果：既成玩具と手づくり玩具へ期待するものの項目等が挙げられた。

#### II. 本研究

- ① 目的：既成玩具と手づくり玩具についてのアンケートを質問紙により、学生の考えている既成玩具と手づくり玩具をどのように捉えているのかを明らかにする。
- ② 調査内容：規制玩具と手づくり玩具についてのアンケート
- ③ 調査期間：2005年8月～9月
- ④ 方法：アンケート調査の目的を理解してもらい質問紙を配布し、記載してもらい集めた。
- ⑤ 回収率：配布数 1年99枚 回答数 95枚 回収率 95.9%  
：配布数 2年98枚 回答数 89枚 回収率 90.8%

### 5. M短期大学幼児保育学科1・2年へのアンケート調査結果

M短期大学幼児保育学科1・2年を対象にして2005年8月～9月に実施した。回収率は1年95.9%で、2年90.8%であった。第1表は、1・2年のアンケートの回収率である。

1年生は95名で、7月に幼稚園教育実習を5日間行った後アンケートを実施した。2年生は幼稚園実習を3週間、保育園実習を4週間終了した学生44名と幼稚園実習を3週間、保育園実

習を2週間、施設実習10日間終了した学生45名に8月にアンケートを実施した。

表1 アンケート回収率

学年	配布数	回答数	回収率
1	99	95	95.9%
2	98	89	90.8%

(1) 既成玩具に期待している点について (学生)

質問2は、「既成玩具に期待している点について」の質問である。複数回答可で期待している項目に丸をつけてもらった。図1(1年)図2(2年)は玩具への期待の回答である。

表2・図1は1年生で整理してみると、第1位は「発達・年齢に合ったものがある。」が複数回答延べ344の59人17%である。2位は「手づくりできない映像や声が聞ける。」が15%である。3位は「興味関心が高い」が13%である。次に「子ども同志で遊べる。」が11%、「心身の発達を促す」が10%、「手づくりできない機械的で精密なもの」10%、「想像力(創造力)を育てる。」が8%、「安全で衛生的である。」が8%、「長時間遊べる。」が5%、「人間づくりができる。」が3%である。

表2・図1は2年生で整理してみると、第1位は「想像力(創造力)を育てる。」が複数回答延べ330の66人21%、2位は「興味関心が高い」が19%である。3位は「心身の発達を促す」が16%である。次に「発達・年齢に合ったものがある。」が15%で、「子ども同志で遊べる。」が8%、「人間づくりができる。」が8%、「安全で衛生的である。」が3%、「長時間遊べる。」が3%、「手づくりできない機械的で精密なもの」3%、「手づくりできない映像や声が聞ける。」3%である。

第1位は1年生では「発達・年齢に合ったもの」がある。2年生では「想像力(創造力)を育てる。」であった。1年生と2年生の共通している項目は、1年生では第3位、2年生では第2位の「興味・関心が高い」が上位に入った。両者は子どもにとって興味・関心を高く持っていることが分かった。

以上のことから1年生と2年生では、玩具に期待している内容が異なることが分かった。1年生で第1位は「発達・年齢に合ったものがある。」と回答した学生は複数回答延べ344の59人17%で、第2位は「手づくりできない映像や声が聞ける。」と回答した学生は19%であった。2年生で第1位は「想像力(創造力)を育てる。」と回答した学生は複数回答延べ330の66人21%で、第2位は「興味関心が高い」と回答した学生は19%であった。

つまり、1年生は玩具を外観から見たそのものをイメージし回答しており、子どもの内面には働きかける力をもっているとは捉えていないことが言える。このことは入学して玩具のもっている力について学んでいないことも原因の一つと考えられる。

他方2年生では、玩具から子どもたちが何らかの刺激を受けて、育って行くことが期待されていることが分かった。

したがって、1年生と2年生の経験の差により、既成玩具に期待しているものが違うことが分かった。

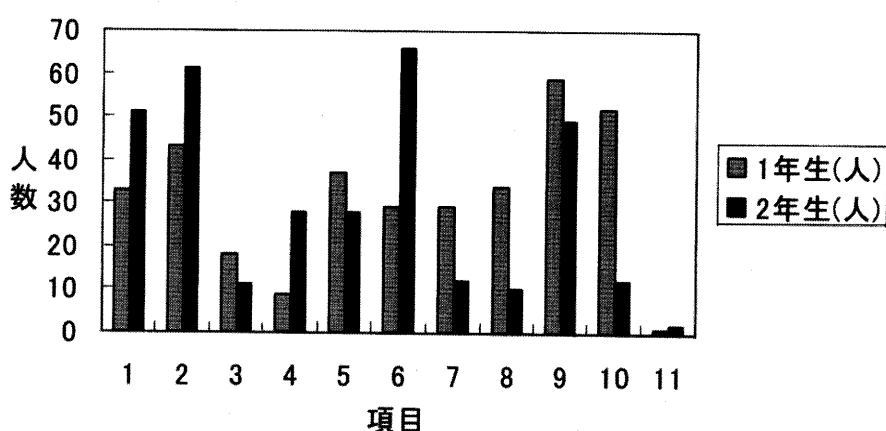
既成玩具に期待していることは、子どもは興味・関心をもっており発達・年齢に合ったものや手づくりできない映像や声が聞こえるものが準備されていて、心身の発達を促し主に想像力

(創造力) を育てることであることが分かった。

表2 既成玩具に期待している点について(学生)

番号	項 目	1年生(人)	2年生(人)
1	心身の発展を促す	33	51
2	興味・関心が高い	43	61
3	長時間遊べる	18	11
4	人間作りができる	9	28
5	子ども同士で遊べる	37	28
6	想像力(創造力)を育てる	29	66
7	安全で衛生的である	29	12
8	手づくりできない機械的な精密なもの	34	10
9	発達・年齢に合ったものがある	59	49
10	手づくりできない映像や声が聞ける	52	12
11	その他	1	2

図1 既成玩具に期待している点について(学生)



## (2) 手づくり玩具に期待している点について(学生)

質問3は、「手づくり玩具に期待している点について」の質問である。複数回答可で期待している項目に丸をつけてもらった。表2・図2は手づくり玩具への期待の回答である。

表3・図2を整理してみると、1・2年共に上位3位の項目が同じあることが分かった。そこで、上位3位を1・2年生別に比較してみる。1年生の手づくり玩具に期待していること(表3・図2参照)は、「手づくりの愛情がある」複数回答延べ438の75人17%である。「手づくりした人の温かみが子どもに伝わる」16%、「その子だけにしかない一つの物になる喜びがある。」15%である。「手づくり玩具に期待すること(表3・図2)は、「手づくりの愛情がある。」複数回答延べ391の58人(15%)、「その子だけにしかない一つの物になる喜びがある」については15%である。「手づくりした人の温かみが子どもに伝わる」は14%であった。この上位

3位までは「子どものためにおとなが作って与える愛情」に関することである。反対に「やわらかい素材が多いので怪我をしない」の項目については、1・2年生共に8位で手づくり玩具についての期待が低いことが分かった。

以上のことから手づくり玩具に期待する点は、保育を専門的に学んでいる2年生も、保育を学びはじめたばかりの1年生も同じ項目に期待していることが分かった。

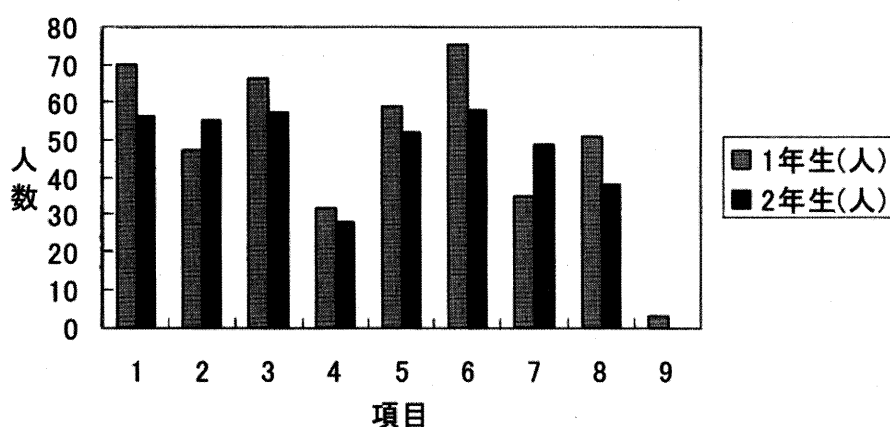
つまり、手づくり玩具に期待していることは、「おとなが子どもに愛情をもって作り上げることにより、信頼関係が育ち、そのことが子どもを育てていくことに繋がること」が分かった。

他方、子ども自身が作ることに期待していることは、1年は95名中51名、2年生は89名中38名で、おとなが作って上げることの方に重点が置かれていることが分かった。

表3 手づくり玩具に期待している点について(学生)

番号	項 目	1年生(人)	2年生(人)
1	手づくりした人の温かみが子どもに伝わる	70	56
2	子どもの好みや目的にあったものができる	47	55
3	その子だけにしかない1つの物になる喜び	66	57
4	柔らかい素材が多いので怪我をしない	32	28
5	子どもの想像を膨らませた遊びができる	59	52
6	手づくりの愛情がある	75	58
7	素材が感じられる	35	49
8	子どもに作ることができる	51	38
9	その他	3	0

図2 手づくり玩具に期待している点について(学生)



## 6. 考察

### ①既成玩具1年生と2年生との比較

表1から1年生と2年生との比較について考察していく事とする。

「心身の発達を促す」では、1年生は33人で2年生は51人であった。両者の差は18人であり、玩具で心身の発達が出来ると考えているのは2年生であり、1年生は玩具で心身の発達を促す

とは考えていないことが分かった。幼児に与える玩具の影響は1年生ではまだ幼児期教育の学習が出来ていないことが考えられる。

「興味・関心が高い」では、1年生は43人で2年生は61人であった。両者の差は18人であり、玩具に興味・関心を持っていると考えているのは2年生であり、1年生は2年生ほど考えていないことが分かった。

「長時間遊べる」では、1年生は18人で2年生は11人であった。両者の差は9人であり、玩具で遊べると考えているのは1年生であり、2年生は既成玩具で長時間遊べるとは考えていないことが分かった。

「人間作りができる」では、1年生は9人で2年生は28人であった。両者の差は19人であり、玩具で人間作りができると考えているのは2年生であり、1年生は既成玩具で人間作りができるとは考えていないことが分かった。

「子ども同士で遊べる」では、1年生は37人で2年生は28人であった。両者の差は9人であり、玩具では子ども同士で遊べると考えているのは1年生であり、2年生は既成玩具では子ども同士で遊べるとは考えていないことが分かった。

「想像力（創造力）を育てる」では、1年生は29人で2年生は66人であった。両者の差は37人であり、玩具では想像力（創造力）を育てると考えているのは2年生であり、1年生は既成玩具では想像力（創造力）を育てるとは考えていないことが分かった。

「安全で衛生的である」では、1年生は29人で2年生は12人であった。両者の差は17人であり、安全で衛生的であると考えているのは1年生であり、2年生は既成玩具では安全で衛生的であるとは考えていないことが分かった。

「手づくりできない機械的な精密なもの」では、1年生は34人で2年生は10人であった。両者の差は24人であり、手づくりできない機械的な精密なものであると考えているのは1年生であり、2年生は既成玩具では手づくりできない機械的な精密なものであるとは考えていないことが分かった。

「発達・年齢に合ったものがある」では、1年生は59人で2年生は10人であった。両者の差は49人であり、手づくりできない機械的な精密なものであると考えているのは1年生であり、2年生は既成玩具では手づくりできない機械的な精密なものであるとは考えていないことが分かった。

「手づくりできない映像や声が聞ける」では、1年生は52人で2年生は12人であった。両者の差は40人であり、手づくりできない機械的な精密なものであると考えているのは1年生であり、2年生は既成玩具では手づくりできない機械的な精密なものであるとは考えていないことが分かった。

両者で一番差があったのは、「想像力（創造力）を育てる」で37人であった。2年生は玩具から想像力（創造力）を育てることを考えていることが分かった。1年生は幼児教育の学びが少ないことが影響していると言えるだろう。また「人間作りができる」と考えているのは2年生であり、玩具からどのように人間関係を構築していくのか1年生はまだ分かっていないと言えよう。このこととは反対に「手づくりできない映像や声が聞ける」という項目では、1年生は2年生よりも40人も多く、手づくり玩具のことが分かっていないことも影響し、既成玩具に手づくり玩具より期待していると言えよう。さらに、「手づくりできない機械的な精密なもの」

があるは1年生の方が24人多く、このことも手づくり玩具のことが分かっていないことも影響し、既成玩具に手づくり玩具より期待していると言えよう。

以上のように既成玩具について1・2年生の比較をしてみたが、1年生と2年生では既成玩具に期待している点が違っていることが分かった。

## ②手づくり玩具1年生と2年生との比較

「手づくりした人の温かみが子どもに伝わる」では、1年生は70人で2年生は56人であった。両者の差は14人であり、手づくりした人の温かみが子どもに伝わるであると考えているのは1年生であった。

「子どもの好みや目的にあったものができる」では、1年生は47人で2年生は55人であった。両者の差は8人であったが、殆ど差がないので両者とも子どもの好みや目的にあったものができると考えていることが分かった。

「その子だけにしかない一つの物になる喜び」では、1年生は66人で2年生は57人であった。両者の差は9人であったが、殆ど差がないので両者とも子どもの好みや目的にあったものができると考えていることが分かった。

「柔らかい素材が多いので怪我をしない」では、1年生は32人で2年生は28人であった。両者の差は4人であったが、殆ど差がないので両者とも子どもの好みや目的にあったものができると考えていることが分かった。

「子どもの想像を膨らませた遊びができる」では、1年生は59人で2年生は52人であった。両者の差は7人であったが、殆ど差がないので両者とも子どもの好みや目的にあったものができると考えていることが分かった。

「手づくりの愛情がある」では、1年生は75人で2年生は58人であった。両者の差は17人で、1年生の方が多いことが分かった。

「素材が感じられる」では、1年生は35人で2年生は49人であった。両者の差は14人で、2年生の方が多いことが分かった。

「子どもにも作ることができる」では、1年生は51人で2年生は38人であった。両者の差は13人で1年生の方が多いことが分かった。

以上1・2年生の比較をしてきたが、両者とも既成玩具ほどの差はなかった。つまり、1年生2年生ともに手づくり玩具に期待していることは同じであることが分かった。したがって、手づくり玩具には、子どもの好みや目的にあったものができ、作った人の愛情が子どもに伝わり、子どもが想像を膨らませた遊びができるということが言える。

## ③既成玩具と手づくり玩具の定義

厳密な意味の「オモチャ」とは、手作りでなくてはならない。つまり、手作り玩具である。おとながこどもの遊び道具として、子どもに愛情を注ぎ最初から意識して作り与えたものでなければならない。家族のうちわだけで、あり合わせの材料で自給自足的に作って与え楽しむものである。それは子どもに注ぐ愛情と言う純粋なアマチュア玩具の本質であり、そこに人間愛が込められている限り、それは他の生活商品と違って、「文化財」と呼ばれるものであるといえよう。このことが手作り玩具の定義と考える。

手づくり玩具に期待していることは、子どもの発達過程に合わせて、身近な素材を使い制作し、人のぬくもり、温かさを伝えることができるものであった。また、それらは安全で手ざわり・色・形に素朴さがあり、興味や関心にあったものであることがわかった。

また、手づくり玩具においては、「一人の人が一つのおもちゃを、ていねいに作り上げていくこと」<sup>10)</sup>と述べている。

既製玩具とは、「おもちゃメーカーがまずモデルを作って、モデルどおりにそれぞれの部品を大量に作り、それらを組み立てて、一個のおもちゃを完成する。」<sup>11)</sup>と肥田埜は述べている。既製玩具の大部分は「人の手でしかできないところを除いて機械に作らせる」<sup>12)</sup>と述べている。したがって、既成玩具に期待していることは、感触・色・形・音がはっきり分かるもので安全性（なめても大丈夫な物）であり、それらと遊んだ時には楽しくおもしろいから、想像・発想が豊かになることであった。また、それらは、すべて手づくりができない機能性や質感のデザインのものであるということが分かった。

## 7. 今後の課題

手づくり玩具は子どもたちが成長・発達してゆく媒具として必要な物であると考えている。その玩具は将来保育者になって行く時に避けて通ることの出来ない大切な物的環境であると言える。その意味において、手づくり玩具を学生が作り子どもに与えることにより、そこに両者間に温かい心の支え合いが育つと考えている。今後は学生の作れる手づくり玩具を学生とともに考えて行こうと考えている。

## 引用文献

- 1) 鳥居淑子「心を伝え合う手づくりおもちゃ」全国社会福祉協議会 保育の友, 2002年
- 2) 厚生省児童局「保育所保育指針」社会福祉法人日本保育協会, 2000年
- 3) 同書
- 4) 山田徳兵衛「日本のおもちゃ」芳賀書店, 1968年 p 11~16
- 5) 多田信作「手づくりおもちゃ事典」黎明書房, 1985年 p8~9
- 6) 同書 p8~9
- 7) 猪谷生美「子どもの心をとらえる学生の手作りおもちゃー小児看護実習で生活支援用具の工夫と開発を考えるー」日本看護学会論文集, 2002年 p145~147
- 8) 同書 p145~147
- 9) 同書 p145~147
- 10) 肥田埜孝司「手づくりおもちゃ」株式会社長岡書店, 1975年 p 209
- 11) 同書 p 209
- 12) 同書 p 209

## 参考文献

- 1) 滑川道夫「オモチャ教育論」東京堂出版, 1969年 p 1
- 2) 多田信作「手づくりおもちゃ事典」黎明書房, 1985年 p8~9
- 3) 猪谷生美「子どもの心をとらえる学生の手作りおもちゃー小児看護実習で生活支援用具の工夫と開発を考えるー」日本看護学会論文集, 2002年 p145~147



## 資料

## アンケート調査用紙

## 既成玩具と手づくり玩具についての調査

・貴方が既成玩具（おもちゃ）と手づくり玩具（おもちゃ）に期待している点について番号に丸を付けて下さい。（複数回答可・特に該当するものには二重丸を付けて下さい。）

## （１）既成玩具

- |                    |                      |                 |
|--------------------|----------------------|-----------------|
| 1. 心身の発達を促す        | 2. 興味関心が高い           | 3. 長時間遊べる       |
| 4. 人間作りができる        | 5. 子ども同士で遊べる         | 6. 想像力（創造力）を育てる |
| 7. 安全で衛生的である       | 8. 手づくりできない機械類の精密なもの |                 |
| 9. 発達・年齢に合ったものがある。 | 10. 手づくりできない映像や声が聞ける |                 |
| 11. その他（           |                      | ）               |

## （２）手づくり玩具

- |                             |                         |                  |
|-----------------------------|-------------------------|------------------|
| 1. 手づくりした人の温かみが子どもに伝わる      | 2. その子どもの好みや目的にあった物ができる |                  |
| 3. その子だけにしかない一つのものになる喜びがある。 |                         |                  |
| 4. 柔らかい素材が多いので怪我をしない。       | 5. 子どもの想像を膨らませた遊びができる   |                  |
| 6. 手づくりの愛情がある               | 7. 素材を感じられる             | 8. 子どもにも作ることができる |
| 9. その他（                     |                         | ）                |